



馬力だすべえ祭

地産地消の先鞭をつける



焼肉会場は大盛況

地場産品の良さをより多くの町民に味わってもらおうと、第1回「馬力だすべえ祭」が行われたのが、昭和61年9月。企画したのは役場・置戸町農業協同組合・商工会関係の若者を中心とした自然発生的に生まれた会で、「置戸町の文化と地域産品を勝手に育てる連合会」と名付けられました。

当時農家で飼育されていたサホーク種の羊肉をシャブシャブと焼肉にしたり、置戸産小麦粉やそば粉で作ったうどんとそば、ヤマベの塩焼、料理研究グループ「とれびあん」が作った「木の实パン」、これに登場したばかりの「炎の里おけと」ワインや「しろ花豆焼酎」が加わり、2,000円の会費で500人が集まり、盛大に行われました。

会場は南ヶ丘公園の山村公園、スポーツセンター横（現在の図書館）を経て、今は中央公民館広場へと移り、夏祭りに次ぐイベントとなり、羊肉に代わって牛の丸焼きを夜を徹して行う光景も暫く見られましたが、時の移り変わりで今は篠原牛の肉がメインとなっております。

このほか、置戸の有名なきのこ、通称「まつたけ」を持参する人がいたり、境野や勝山から焼きトウモロコシややきいも、メロンほか各種産品の

即売があり、おじさん達のおやつ、ビート汁を用いた汁粉や手づくりせんべい焼き、「ドーン」というすさまじい音とともに弾けるどんの無料提供も行われております。

特設舞台では、「どんころ投げ世界選手権大会」「木トンボ距離飛ばし全道大会」「女子イモ掘りタイムトライアル大会」などユニークなイベントが行われておりましたが、会場の移り変わりとともに「ワールドカップ馬力うどんの早食い大会」、置戸の産品などが当るお楽しみ抽選会に変わっております。

子供達からはお菓子まきやニジマス、ヤマベのつかみどりで歓声があがるといった、町のグルメの日でもあり、物産展でもあり、レクリエーションの日でもあります。

（参照：置戸町史 下巻、続置戸町史）



ニジマスのつかみどり

2つの給付金の申請はお済みですか

平成26年4月から消費税率が8%へ引き上げられましたが、所得の低い方や子育て世帯への負担の影響を緩和するために、「臨時福祉給付金」と「子育て世帯臨時特例給付金」が支給されます。今年度は、2つの給付金のどちらの要件にも該当する方については、両方とも受け取ることができます。

申請期限は11月4日（水）

臨時福祉給付金、子育て世帯臨時特例給付金ともに置戸町の申請期限は11月4日（水）です。

臨時福祉給付金

＞支給対象者

平成27年1月1日に置戸町の住民基本台帳に登録されている方で、平成27年度の住民税が課税されていない方。

ただし、平成27年度住民税が課税されている方の扶養親族や生活保護制度の被保護者となっている場合などは対象となりません。

＞支給額

対象者1人につき6,000円

＞申請に必要なもの

印鑑、保険証（世帯全員分）、申請者名義の通帳